

発行所

曹洞宗宮城県宗務所

仙台市泉区市名坂字檜町169-4

TEL 022(218)3801

FAX 022(218)3803

e-mail:sotou-miyagi@road.ocn.ne.jp

発行者 所長 小野崎 秀通

# 宮城県宗務所報



(金龍山 瑞雲寺)



## 宗勢報告に想う

曹洞宗宮城県宗務所長

小野崎 秀通

先般、「曹洞宗宗勢総合調査報告書」が出た。その序に「地域社会における過疎化、少子高齢化の進展、伝統的な地縁・血縁的な共同体の崩壊が顕在化し、現状のままでは宗門寺院の存続ができない状況にあり、宗門が歴史的な岐路に立たされていることが明らかにされている。」としながら、昭和四十年の調査書においても、「なぜこうなったのか、そしてどうしなければならぬのかを、この集計と分析の中から、新たに導き出すのでなければならぬ。事実を事実として正確に把握し、その事実立って、あるべき姿を求めてゆく覚悟である。」とのべられている。

全国四十六都道府県の宗門寺院一万四千六百三か寺の内、府県十九か所で凡そ三割前後が兼務寺院となり、五割に及ぶ県もある。近い将来更に加速的に増え、無住化することが予想される。宗教学者の島田裕己氏が、平成二十二年に『葬式は、要らない』を、翌年『お墓なんて要らない』を相次いで出版以来、テレビをはじめメディアが次々に

取り上げ、葬儀やお墓に対する考えが大きく変わりつつある。島田氏は特に寺院僧侶に対する批判が手厳しい。「檀家は寺に相当な負担を強いられる」と。最近では、葬儀の簡略化とともに、無宗教式の葬儀の動きを加速させていると指摘している。さらに葬式よりも「墓」が問題だとして、墓に縛られない生き方が求められていることが紹介され、墓は時代遅れではないかと指摘し、「墓を作らない社会に向けて」と提案までしている。東日本大震災以来、被災地は急激に人口減少、少子高齢化が進み、住職として「脱葬式仏教」「墓じまい」が実感される状況である。

斯かる状況下において、寺院として、僧侶として「なぜこうなったのか、どうしなければならぬのか」を熟慮し、対策を講じなければならぬ。そして「あるべき姿を求めてゆく覚悟」を持たなければならぬ。一仏両祖の仏法宣揚を欣求するには、寺院、檀信徒の枠を越え、現代社会に向けた積極的な宗教活動が必要である。

# 人権コーナー

## 原発避難いじめの実態



人権主事 亀井光昭

東京電力福島第一原発事故で、県内外に避難している児童生徒が受けていたいじめは、これまで一九九件。その内、東日本大震災や原発事故に関連したいじめは十三件だった。小中学生一万二千人を対象に文部科学省が二〇一六年十二月に行った初めての全国調査で判明した。放射能への無理解や被災地への偏見を要因とする「原発避難いじめ」は昨年、各地で次々と明らかになった。調査は生徒らの受け入れ校を通じて行った。一九九件中、一二九件が十六年度にあったいじめで震災、原発関連は四件だった。十五年度以前の五年間については各校が十分に把握できなかった可能性もある。いじめは被害者自らが言い出しにくく表面化しづらい。今回の調査結果を「水面下」の部分を十分考慮したうえで、防止対策に生かさねばならない。

年度以前の九件に悪質な例が目立つ。小学校に入った児童は「福島へ帰れ」と面と向かって言われたという。「放射能が付くから近づくな」と仲間はずれにされた児童もいた。一連の「原発避難いじめ」の発覚の発端となった横浜市の中学生の事例もこの九件に含まれる。小学生の名前を「菌」付けて呼ばれるいじめに遭いさらに遊興費を強要され、不登校になった。

全てに共通しているのは、放射能被害についての誤った認識、被災者に対するの排除意識が色濃くあることだ。学校側の責任も重い。横浜のいじめでは学校が実態を知っていながらいじめ防止対策推進法に基づく「重大事態」とみなさず対応しなかった。救いを求める声に耳を傾けず、結果的に子供の苦痛を深刻化させてしまった。故郷に帰れず不安を抱えたまま学校生活を送る子供達は震災六年を経ても減ることはない。いじめへの感度を最大限に上げていかなければならない。

# 平成二十八年年度第二回現職研修会

平成二十九年三月二十二日〜二十三日 於ホテル・水戸屋

## 情報社会を通してみる

### 僧侶のあり方

第二教区 全玖院住職

宇野慎哉



今回の研修で、山口県常寂光寺住職山縣洋典老師より講義を頂戴致しました。

最初に情報化社会として「子ども、戒名、個人情報」等の商品化について売買の実態を、具体例を挙げながら説明を頂きました。特に「戒名」については、その背景として葬儀や供養の非日常化、形骸化によって売買が進んだ経緯が述べられました。

次に情報化社会の進展によって、自分で物事を考える過程が省略され、合理性のみで即座に判断し、答えを出す事が多くなり、その結

果人から思考する時間を奪つという、人間の喪失が起きている。このような状況においては、僧侶として見えない部分を感じる事の出来る様な心のあり方を構築し、人と対峙した時にその人の持つ本来の願いや心を感じ取る努力をし、それに近づく事がより重要で大切な事となる。

そうなる為に有効な方法として「傾聴」があります。『愛語は愛心よりおこじ、

愛心は慈心を種子とせり』という道元禅師の言葉のように、相手との違いで対峙して満足を得るのではなく、相手と同調する点、同一



点を求め相手の心に寄り添う事が大事であると述べられました。これらの事から、私は例え時代が変わっても人間の本质はほぼ不変であり、その人を理解する努力を続け、僧侶として恐れる事なく面授、対峙していく気概を持ち常に精進を重ねて一步一步前進していかなければいけないと強く感じました。今回の講義では、考えさせられる事、気付かされる事が多く、これからの僧侶のあり方を見つめ直す貴重な機会となりました。

### 感情労働を通してみる 僧侶のあり方

第九教区 石雲寺副住職

宮本 貴心



この度は山口県常寂光寺御住職山縣洋典老師の講義を受講させて頂きました。老師には教員をお勤めの頃から現在に至るまでの経験をもとに様々な角度からお話し頂きました。

最初に現在の労働条件は肉体労働、頭脳労働、感情労働の三つに分類されると説明頂きました。その中の感情労働のひとつの分野を担っていく私達はどのように勤めていくべきなのか。それは相手の方がどのような気持ち、状態で相談にいられているかをしっかりと理解する必要があるとお話しになりました。

その方法として心理学のモデルである「ジョハリの窓」を例に説明を頂きました。私達は慈悲や布施などお釈迦様の時代から伝えられてきた根本的な人間のあり方や考え方を改めて提示し、話を広め伝えていく事が大切なのだとお話し頂きました。

宗教者である私達は、見識を広め正しい倫理観を持つ事が必要なのだと改めて考えさせて頂きました。



### 坐禅会を始めるために

第二教区 光壽院副住職

阿部 真龍



二月二十一、二十三日に行われた第二回現職研修会で、「坐禅会を始めるために」という演題の下、総合研究センター委託研究委員の小杉瑞穂師に講義をして頂きました。

講義では、仏教離れ、お寺離れが叫ばれる現代において、宗門各寺院の「寺院力」の向上、及び各僧侶の「僧侶力」向上を目指す上で重要になると思われる、「坐禅会」を始めるのに必要な諸知見をご教授頂きました。基本的な坐禅作法の確認から始まり、坐禅を行う上で手軽に利用できる携帯アプリの紹介や、小杉師が実際の坐禅会で一般の初心者向けに行っているユニークな準備体操のお話などをさせて頂き、現代に則した坐禅会を考える上で貴重なヒントを得る

ことが出来ました。仏教離れと言われませんが、

昨今の日本においてはむしろ禅文化への関心

は高まっているように感じられます。私の周囲でも、特に社会人の方で、忙しい日常を離れて、心を取りセットできるような場所を求める方が増えているように思います。実際に坐禅に興味を持たれる方もおります。

情報化社会と呼ばれ、良くも悪くも何かとせわしい現代において、心の安らぎやもう少し緩やかな生活を望む人々の願いが、「禅」への興味という形で表れているのかもしれません。今回の講義を活かし、坐禅会を始めとする、地域の方々の安らぎの場となるような魅力あるお寺の在り方を模索し、ひいては自らの僧侶力の向上へと繋げていくことが出来ればと思います。



# 《青少年教化員の活動》



第二十一教区  
青少年教化員  
満興寺 副住職 時 泰 広

昨年からは青少年教化員の一人として活動させていただいております。この一年間活動をしてみて感じたことがあります。それは「自分で考え実践すること」の大切さです。私たち青少年教化員は主に各教区様に行われている坐禅会や子供会にて演劇を行う活動（ヒーブレイブ）をしております。

劇の内容は簡単に申しますと「いじめをなくそう」というものです。演じる役にはそれぞれ悩みがあり、昔いじめられた背景がありながら自分より弱いものに当たってしまいう役であったり、いじめられて嫌だと自分の声を外に出すことのできない役であったり、劇自体はわかりやすく演出されておりますが、現代で起こっている問題や現状を反映している設定になっております。

この劇を真剣に見入っている子供たちを目の当たりにして、少しでも意図が伝わってもらえたらいいなと思っていたところ、公演後の子供たちの様子に変化が表れておりました。

先ほどまでは自分のしたいことをそのまま行動に起こし友達とぶつかり合っていた子が、譲り合いの気持ちを持ち友達に優しく接する姿を見ました。

これはこの劇を見ることにより相手の立場に立って考えることができるようになったからではないかと感じました。

今の子供たちの遊ぶ環境はネットの動画を見たりゲームをしたりするなど一人で完結するものがひと昔前より多くなっており、その分人と接することが少なくなることや相手のことを考えず「我」を通す場面が多くなっているように感じます。

坐禅会や子供会などでは学校教育とは違う初めて会う友達と協調して過ごすことの大切さを学ぶことができる貴重な機会だと思えますし、且つこの演劇を鑑賞した後さらに一歩踏み出した相手の気持ちを考えようとする行動を学んでいただけたらと考えております。

今後子供たちが健やかに育つよう願う青少年教化員の活動に精進してまいります。



# 生活の中の仏教語

第十一教区 清福寺住職 長谷 誠悦 師

# 「微妙」

「清武が右足張り開幕出場は微妙」

これは平成二十九年（二〇一七）二月二十一日付の新聞スポーツ欄の見出しである。

清武とはサッカーでドイツやスペインのリーグで活躍し、今年からJ1セレッソ大阪に所属の日本を代表する清武弘嗣選手のことである。結局四日後の開幕戦には間に合わず欠場し、チームはジュビロ磐田と引き分けた。

さて、この時の清武選手は怪我の具合により試合に出られるかどうかの瀬戸際であった事かわかる。この場合の「微妙」とはどちらになるか分からず、判断が付きにくい事で、日常よく使われるケースではないでしょうか。

「音程が微妙に変化する」「微妙な心のすれ違い」「両国の関係は微妙な段階にある」とか、また女子高生などが会話で、「ねえあのキムタクに似てない？」「えっ。ビミョー」などである。

現代で使われる一般的意味は、「小さくて気がつきにくい。とらえにくい。こまかい。多少。」などであり、時には真逆の意味で使われることもある。

「微妙」は本来仏教用語であり、お経の中では「みみょう」と読み、「はかりしれぬほど深くてみごと。すぐれてみごとなこと。うにいわれぬ不思議さ。」のこを表現する。

文学でも夏目漱石の「吾輩は猫である」に「空に美しい天女が現われ、此の世では聞かれぬ程の微妙な音楽を奏し出した」等がそれである。

農作物を栽培するにしても、「微妙」な温度調節や水の管理などが作物の出来の善し悪しに関わってくるといわれる。日本の農業は世界に秀でる技術を持っていると聞く。TPPの事や諸外国からの圧力など様々な問題が山積する昨今であるが、是非農家の方々には日本人の持つ微妙（みみょう）なる繊細さを生かし、私たちにおいしさの笑顔を届けていただきたいと思います。

# 布教師協議会コーナー

「布教実践講習会」を受講して

第一教区 鉤取寺住職

都築 幸三

布教師協議会では、昨年度より始まった新シリーズ「各宗派のお葬式を学ぶ」の第二回として、今年度は「浄土宗のお葬式を学ぶ」と題して、若林区新寺愚鈍院住職 中村瑞貴師をお招きし、平成二十九年一月十一日、秋保温泉ホテルニュー水戸屋にて開催した。

第一部、「浄土宗の教理と民族信仰」では、その歴史、儀礼や作法の基本理念を、事細かく紹介された。また日常勤行式、荘厳様式を高祖善導大師・宗祖法然上人の繋がりとして、「お念仏」との関係から、分かり易く説明が為された。また、東北地方独特の慣例的風習である念仏行や数珠回しの歴史にも触れられた。江戸幕府の宗教施策「寺請け制度」や「宗門改め」により、寺檀制度が確立され、在



家葬儀を寺院の住職が執行するようになる。新亡を仏弟子の姿にして、極楽浄土を願う「没後作僧」の作法が中心となるようになったのは、浄土宗においても昭和初期であり、葬儀が禅宗の規範に準じて勤められていたことは興味深い。その要因として、鎖龕・起龕・下炬の作法次第が良く整って伝えられていることを指摘された。

第二部「葬儀の実践」では、浄土宗の葬儀法を一覧表にて説明された。昨今の事例や、葬儀・告別式の時間的制約による簡略化もあるが、教理である『死者が極楽浄土へ往生するための儀式』として、曹洞宗の授戒にあたる（香燭・三寶礼・奉請・懺悔十念）、乘炬・引導にあたる（下炬の偈）、読経にあたる（誦経・念仏一会）等が紹介された。また基本荘厳として「二尊遣迎」の形態を取り、本尊には阿弥陀様を安置し、祭壇にはお釈迦様を来迎する形式がと

られている。後半には、霊供念誦や礼讃（節付の偈文）文も実演され、また、浄土宗の僧階級や、威儀（資格衣・被り物）等の詳細まで、実際に法衣を装着されてのご説明は大変興味深く拝聴した。講師は最後に、葬儀式の縮小化、宗侶の研鑽不足からも、本宗旨の

葬儀が不十分で、青年僧に儀礼作法の伝授、伝承ができていない現状の要因は、自分達にも責任があると結ばれた。我が宗門も同様ではないだろうか。他宗の儀礼を学ぶことにより、我宗の行事の新たな理解が得られれば幸いであると痛感する。

## 「精進料理」

### すずしろ蕎麦

第十四教区

宗恵寺 副住職 長尾 靖樹

【材料】（二人分）

大根	適量
みょうが	3本
蕎麦	300g
大葉	6枚
精進めんつゆ	
昆布5g	干し椎茸2枚
しょうゆ	100cc
みりん	100cc
さとう	小さじ1

### 【作り方】

1 『精進めんつゆの作り方』

昆布と干し椎茸は水1リットルに戻しておく。  
煮込んでだしをとる。  
鍋にみりんを入れ、アルコールをとばす。  
しょうゆ・さとう・だし700

- 2 ccを入れ、沸騰させないように10分程とろ火にかけ冷やす。
- 3 大根・みょうが・大葉を千切りにし、水にさらす。
- 4 蕎麦を茹で、水でよくぬめりをとり氷水でしめる。
- 5 蕎麦を器に盛り、薬味を盛り付ける。

※大根を別名『すずしろ』といい、老舗などではすずしろ蕎麦と言われています。



## 平成28年度曹洞宗宮城県宗務所事業報告書

平成28年4月1日～平成29年3月31日

月	日	曜日	担当	内 容	摘 要
4	5	火	梅 花	養成所初級	
	6	水	梅 花	養成所上級	
	8	金	宗務所	休務（釈尊降誕会）	
	13	水	教 化	布教委員会	
	18	月	人 権	災害対策委員会	
	20	水	宗務所	住職勤続祝賀会	仙台新寺齋場清月記
28	木	教 化	婦人会総会（21日迄）	泉ヶ岳温泉やまぼうし	
5	6	金	宗務所	監査会	
	6	金	センター	センター40周年記念事業『祈りの道』（11日迄）	
	10	火	梅 花	養成所初級	
	11	水	センター	センター40周年記念事業『祈りの道』法要	⑬洞源院
	12	木	教 化	寺族会総会（13日迄）	松島一の坊
	16	月	梅 花	養成所上級	
	18	水	梅 花	梅花流全国奉詠大会（19日迄）	富山県富山市総合体育館
	23	月	宗務所	責任役員会・定例所会	
25	水	梅 花	研修所		
6	1	水	教 化	護持会総会・特派布教師連絡協議会	
	3	金	人 権	現地研修会	国立療養所東北新生園
	6	月	梅 花	養成所初級	
	7	火	梅 花	養成所上級	
	8	水	人 権	後継者対策委員会	
	13	月	梅 花	特派講習会（18日迄）	
	20	月	教 化	第1回現職研修会（84名参加）	②林香院
27	月	教 化	特派布教師巡回布教（7月1日迄）		
30	木	教 化	所報発行第94号		
7	5	火	管 区	曹洞宗婦人会東北管区婦人会（6日迄）	青森県馬門温泉
	6	水	宮曹青	ソフトボール大会（宗務所共催）	富谷町総合運動公園
	7	木	梅 花	研修所	
	11	月	梅 花	養成所初級	
	12	火	人 権	災害対策委員会	仙台秋保温泉岩沼屋
14	木	梅 花	養成所上級		
8	3	水	センター	第150回禪をきく会	仙台市太白区文化センター楽楽楽ホール
	4	木	宮曹青	青年会実行委員会	③洞安寺
	10	水	宗務所	盆休務（20日迄）	
	23	火	教 化	徒弟研修会	宗務所
	25	木	梅 花	研修所	
9	1	木	梅 花	養成所合同	⑭清水寺
	6	火	センター	青少年教化指導者研修会	
	7	水	管 区	管区寺族会（7日迄）	鶴岡 萬国屋
	13	火	宗務所	監査会	
	19	月	梅 花	宮城県梅花流奉詠大会	仙台市体育館
	27	火	宗務所	彼岸休務（25日迄）	
10	3	月	梅 花	研修所	
	4	火	梅 花	養成所初級	
	5	水	教 化	寺族会研修会	宗務所
	5	水	庶 務	保護司会総会	仙台新寺齋場清月記
	12	水	教 化	護持会本山研修（14日迄）	大本山永平寺
	18	火	梅 花	検定会	⑰雙林寺
	24	月	梅 花	検定会	⑬法山寺
	28	金	梅 花	検定会	②林香院
11	1	火	梅 花	研修所	
	4	金	梅 花	養成所初級併設検定会	宗務所
	7	月	梅 花	養成所上級併設検定会	宗務所
	9	水	宮曹青	東北大会	仙台サンプラザ
	10	木	宮宗連	宮城県宗教法人連絡協議会研修会	新寺愚鈍院
	11	金	梅 花	県大会反省会	仙台新寺齋場清月記
16	水	宮宗連	宮城県宗教法人連絡協議会研修旅行（17日迄）	山形県	
12	1	木	センター	第152回禪をきく会	東京エレクトロンホール宮城
	6	火	梅 花	東北管区教化センター40周年記念式典	江陽ランドホテル
	8	木	宗務所	研修所・養成所合同一泊（7日迄）	仙台秋保温泉ホテルニュー水戸屋
	8	木	宗務所	休務（釈尊成道会）	
1	18	水	教 化	婦人会研修会新年会	仙台サンプラザ
	24	火	人 権	後継者対策委員会・災害対策委員会	
	25	水	教 化	所報発行第95号	
	26	木	教 化	寺族会理事会新年会	
	27	金	庶 務	保護司会祝賀会	仙台新寺齋場清月記
	27	金	宗務所	宗務所	
2	6	月	梅 花	養成所初級	
	7	火	梅 花	養成所上級	
	10	金	宗務所	監査会	
	10	金	教 化	布教委員会	
	13	月	人 権	人権擁護推進委員会	
	14	火	梅 花	研修所	
	15	水	宗務所	休務（釈尊涅槃会）	
	17	金	教 化	寺族会研修会	宗務所
22	水	教 化	第2回現職研修会（23日迄）（115名参加）	仙台秋保温泉ホテルニュー水戸屋	
3	9	木	梅 花	特別講習会（3日迄）	仙台秋保温泉ホテルニュー水戸屋
	9	木	宗務所	実務担当者会議（10日迄）	宗務所
	13	月	梅 花	養成所初級	
	14	火	梅 花	養成所上級	
	16	木	宗務所	責任役員会・定例所会	
	17	金	宗務所	彼岸休務（23日迄）	
	27	月	教 化	青少年教化員会議	

平成29年度曹洞宗宮城県宗務所事業計画書

平成29年4月1日～平成30年3月31日

月	日	曜日	担当	内 容	摘 要
4	5	水	梅 花	養成所初級	
	6	木	梅 花	養成所上級	
	8	金	宗務所	休務（釈尊降誕会）	
	13	木	教 化	布教委員会	
	19	水	宗務所	住職勤続祝賀会	仙台新寺齋場 清月記
	20	木	宗務所	予備監査会	宗務所
5	25	火	教 化	婦人会総会	
	25	火	管 区	管区護持会長会（26日迄）	花巻温泉 ホテル千秋閣
	8	月	梅 花	養成所初級	
	9	火	梅 花	養成所上級	
	11	木	教 化	寺族会総会（12日迄）	仙台秋保ホテルニュー水戸屋
	12	金	宗務所	監査会	宗務所
6	15	月	梅 花	師範研修所	
	18	木	教 化	青少年教化員会	
	23	火	宗務所	責任役員会・定例（決算）所会	
	25	木	梅 花	梅花流全国奉詠大会（大会二日目・宮城県登壇日）	大本山永平寺
	1	木	教 化	護持会総会・特派布教師連絡協議会	宗務所
	2	金	教 化	所報編集小委員会	
7	5	月	梅 花	養成所初級	
	7	水	管 区	管区宗務所連絡協議会（8日迄）	江陽グランドホテル
	12	月	梅 花	特派講習会（17日迄）	
	20	火	梅 花	県大会委員会	
	21	水	管 区	管区集会（22日迄）	岩手県 花巻温泉
	22	木	青年会	ソフトボール大会	宗務所共催
8	23	金	梅 花	師範研修所	
	26	月	教 化	特派布教師巡回布教（30日迄）	
	27	火	管 区	管区婦人会（28日迄）	秋田県 ホテル鹿角
	1	土	教 化	所報第96号発行	
	3	月	教 化	現職研修会	第2教区 林香院
	5	水	梅 花	養成所初級	
9	6	木	梅 花	養成所上級	
	13	木	人 権	人権現地研修会（14日迄）	福島県
	18	火	梅 花	師範研修所	
	10	木	宗務所	休務（盆 20日迄）	
	23	水	教 化	徒弟研修会	宗務所
	25	金	梅 花	師範研修所	
10	4	月	宗務所	監査会	宗務所
	12	火	宗務所	中国祖師仏教視察研修会（8日迄）	
	13	水	梅 花	養成所合同研修会	
	16	土	センター	青少年教化指導者研修会	宮城県
	20	水	宗務所	駐車場工事（30日迄）	
	25	月	宗務所	休務（秋彼岸 26日迄）	
11	25	月	本 庁	全国人権擁護推進行事研修会（27日迄）	
	4	水	梅 花	梅花流宮城県奉詠大会準備会	仙台サンブラザホール
	5	木	梅 花	梅花流宮城県奉詠大会	仙台サンブラザホール
	6	金	教 化	所報編集小委員会	
	10	火	梅 花	養成所初級	
	12	木	梅 花	養成所上級	
12	16	月	教 化	護持会本山研修会（18日迄）	大本山總持寺他
	20	金	梅 花	師範研修所	
	24	火	梅 花	検定会①	第13教区 法山寺
	27	金	梅 花	検定会②	第17教区 雙林寺
	27	金	梅 花	検定会③	第2教区 林香院
	6	水	梅 花	養成所初級併設検定会	
1	7	火	梅 花	養成所上級併設検定会	
	14	火	梅 花	県大会反省会	
	6	水	梅 花	研修所・養成所合同一泊研修会（7日迄）	仙台秋保ホテルニュー水戸屋
	8	木	宗務所	休務（釈尊成道会）	
	23	日	宗務所	休務（年末年始 1月10日迄）	
	16	火	宗務所	休務	
2	19	金	人 権	後継者対策委員会	
	25	木	人 権	災害対策委員会	
	25	木	宗務所	予備監査会	
	31	水	管 区	管区人権主事連絡協議会（26日迄）	
	31	水	宗務所	監査会	
	1	木	教 化	所報第97号発行	
3	5	月	センター	教化活動企画委員会	
	6	火	梅 花	養成所初級	
	8	木	教 化	布教委員会	
	14	水	梅 花	養成所上級	
	15	木	宗務所	師範研修所	
	16	金	宗務所	休務（釈尊涅槃会）	
4	20	火	宗務所	所会運営委員会	
	22	木	人 権	人権擁護推進委員会	
	23	金	教 化	現職研修会（23日迄）	仙台秋保ホテルニュー水戸屋
	28	水	宗務所	教区長会	仙台秋保ホテルニュー水戸屋
	28	水	梅 花	特別講習会（前泊）	仙台秋保ホテルニュー水戸屋
	1	木	梅 花	特別講習会（2日迄）	仙台秋保ホテルニュー水戸屋
5	8	木	本 庁	実務担当者連絡協議会（9日迄）	
	13	火	宗務所	責任役員会・定例（予算）所会	
	14	水	梅 花	養成所初級 最終	
	16	金	梅 花	養成所上級 最終	
	18	日	宗務所	休務（春彼岸 24日迄）	

六年前のあの日、ただならぬ揺れに津波を警戒して社員に避難を促した平塚さん。それでもお一人の社員がおしくなりになつてしまわれたことを悔やんでおられました。波が引いて目にした大勢のご遺体や工場の姿をしばらくは現実として受け入れることが出来なかつたといひます。きつと巨大な映画のセットの中にいるのではないか？夢なのだからと言ひ聞かせないと自分もたなかつた。

今年で八十六年続く山徳平塚水産は祖父である平塚留五郎氏によって昭和六年に創業。鹿児島で鰹節製造を学んだ経験から、当初は自社で鰹一本釣り漁船を操業して鰹節を中心に製造していましたが、脂乗りの良い三陸産の鰹には不向きだったため蒲鉾などの練り製品へと転換。爾来焼竹輪を主製品としながら製水事業にも力を入れ、父である二代目平塚總一氏によって石巻地方の水産業界を担う会社の一つにまで成長したのでした。平成二十二年に隆一郎氏が三代目に就任し、更なる事業の充実を図ろうとしていた矢先、東

日本大震災で被災し二代八十年に亘り築き上げられてきた工場や社屋が破壊されてしまったのです。辛うじて家族はご無事だったものの、あまりの惨状に一体何から手を付けていいのか皆目見当もつかず、ただただ呆然



《被災写真》

人物随聞記 (13) 第十三教区 法山寺檀徒

山徳平塚水産株式会社

代表取締役社長

平塚 隆一郎さん

とするばかりだったそうです。しかし犠牲になられてしまった社員の為にも、亡くなられてしまった多くの方々の分まで一杯生きていくことが生かされた者の勤めだと奮起し、会社を再興する決意をされました。工場再稼働に向けて同時に頭を浮かんだのはそれまでの取引先販路の確保でした。再開しても購入してくれる相手がなければど

うにもなりません。これは、平塚水産のみならず石巻の同業者全体に共通する問題でもありません。そこで、八戸や一関の水産加工会社に頼み込んで自社レシピを元に製造してもらい、自社ブランド名で販売を続けそれまでの販路保持に努めます。その間に工場の再開を進め僅か2年でもうにか自社工場での製

造再開に漕ぎ着けたのでした。周囲に比べてかなり早い再開を可能にしたのは、初代留五郎氏の先見の明のお蔭だったので。一つ目は、地震に耐えられるよう経費を惜しまず太く堅牢な鉄骨で工場の骨組みが組まれてい



《社屋写真》

た為、そのまま活かして改修工事が可能だったこと。もう一つは、そもそも地盤沈下に備えて周囲より土台を1メートル以上高く構えてあったため、土盛り工事をせずに済んだこと。改めて祖父や父の偉大さとそこに込められた願いを感じたそうです。そんなたくさんの想いが詰まった会社を守るため、隆一郎さんが選んだ道は周囲と共存共栄していくことでした。震災前は一社一社が鎬を削る状態でしたが、連携して石巻全体で復興していきたいとの思いを抱き、賛同する方々と「石巻元気復興センター」に協同参画。再建までに生じた販路の減少には複数の会社が組めば補い合える。情報の交換や共有さらには専門家や行政からのアドバイスを得ることも出来る。内陸の仮設や復興住宅等への人口分布変化に伴う従業員不足や、原材料の高騰など抱える問題はどの会社も共通。

だからこそこのピンチをチャンスに変えるべく、共に知恵をだし、協力し合いながら未来を切り開いていきたいのですと語ってくださいました。

所報編集委員 北村 暁秀



# おすすめの本

第一教区

金剛寺 住職 根本 秀逸

おばけのケーキ屋さん

発行/SAKAE出版社

マイクロマガジン社



「20万人が涙した、WEBで話題の感動絵本」という、現代を象徴する文言の帯が、本書には付いていた。

美味しいケーキを作り、食べた者のおどろく顔を見るのが好きなおばけと、同じ感想しか言わない女の子が交流していく様は、とても可愛らしい。しかし、物語を進めるにつれて、なぜ女の子が同じ感想だったのか。おばけがとった最後の行動に込められた思いとは。この二つの思いの答えを知った時、心が温まり「身近な人と思うこと」を考えさせてくれる、そんな優しい絵本でした。

第二十一教区

東泉寺 副住職 眞山 隆宏

ブッダの教え一日一話

今を生きる366の智慧

アルボムツレ・スマナサーラ著

発行/PHP文庫



スリランカ仏教会の長老である著者が、日々の生活に活かせるブッダの教えを一日一話形式でやさしく説いている。

本書の大きなテーマはブッダの教えを学び、「いまを生きる」ことで幸福になることであるが、その月毎に大体のテーマが決まっております。「少欲知足」や「布施」、「智慧」などのテーマについて簡潔な文章で解りやすく述べている。短い文章ながら、含蓄のある言葉で様々な表現で述べられている為、読み進めると自然と理解が深まっていく。一日一話形式なので、拾い読みもできるため、常に手元に置いておき、繰り返し読み込みたい一書である。

第六教区

## 瑞雲寺沿革



金龍山 瑞雲寺住職 村上 健龍

### 表紙写真説明

金龍山瑞雲寺は室町時代の長祿二年（一四五八年）瑚海仲珊禅師（こかいちゆうさんぜんじ、新潟県村上市、耕雲寺四世）が伊具郡丸森町金山の地に足を踏まれ、耕雲寺の末寺として金龍山の中腹を整地し寺院を建立したのに始まります。

その後、天正の頃に本堂がひどく荒廃し、伊達陸奥守藩士中島伊勢守宗求公（瑞雲寺中興開基）が建物を修繕。そして田畑を寄進し中島公の菩提所として維持されました。元禄の頃に本堂の大修繕が施され今に至ります。現在は本堂を中心として衆寮、庫裡、鐘楼堂、観音堂の建物配置となっております。

瑞雲寺の南側一段高く眺望のよい所にかつてお堂があり、中島家代々の御位牌が安置されてきたといわれています。このお堂には金泥が塗られて燦然たる光輝を放ち、世間の目を奪ったといわれていますが、明治九年（一八七六年）原因不明の失火により灰燼に帰して金山の一美観を失ってしまいました。現在はお堂を囲む石のみが残っています。

境内には、髪の毛を供養した全国でも珍しい「頭髮供養碑」。かつて生糸の産地だったことを物語る「猫供養碑」。開山当初からあるといわれている古木「多羅葉樹」「百日紅」を見ることが出来ます。

瑞雲寺には末寺が三ヶ寺あります。大内の長泉寺（九世開山）、柴田町船岡の大光寺（十世開山）、金山の溪水寺（十五世開山）があり、丸森町の一寺院として今日に至っております。

### 新命住職

第三教区	42番	鳳寿寺	鈴木 俊龍師	29・1・31
第六教区	138番	西圓寺	石龍 英紀師	29・1・31
第十五教区	382番	清水寺	酒井 禅悦師	29・1・31
第七教区	183番	善盛寺	根来 浩之師	29・3・30
第一教区	8番	大満寺	西山 道環師	29・6・1
第一教区	101番	柳生寺	佐藤 無憂師	29・6・1
第四教区	99番	鷹硯寺	池田 宏道師	29・6・1
第七教区	169番	中興寺	柴田 清孝師	29・6・1

### 結制修行

(一層の弁道精進を祈ります)

第十五教区	385番	津龍院	法幢師	館寺 俊明師
(平成29 夏・中・初会)			首座 馬場 義宗 兄	

第五教区 131番 洞昌寺

(平成29 夏・中・初会)

法幢師	奥野 秀典師
首座	奥野 憲昭 兄
第十三教区	303番 長谷寺
(平成29 夏・後・初会)	
法幢師	永松 泰信師
首座	石山 宗彦 兄

### 遷化

(謹んで弔意を表します)

第二教区	48番	福壽院東堂	清野 卓有	28・11・18
第四教区	99番	鷹硯寺東堂	池田 宏宣	29・3・24
第十教区	270番	瀧澤寺副住職	太田 玄峰	28・12・12
第十三教区	305番	金藏寺東堂	渡邊 祐光	29・2・24
			満 88歳	

### 逝去

(謹んで弔意を表します)

第四教区	110番	慶雲院寺族	清水 米子様	29・1・30
第十五教区	392番	金秀寺寺族	酒井 彩子様	28・11・23
第七教区	179番	玉昌寺寺族	千葉ハナヨ様	29・4・8
			92歳	

### 宗務所より

○ 平成十八年十二月より書記を勤められた、第八教区二一〇番香林寺副住職千葉恵慈師は一身上の都合により平成二十八年十二月三十一日を以って退任いたしました。二期半(十年)にわたり県内外宗務行政に従事頂きました。今後益々のご活躍をご期待いたします。

後任として第十七教区四一八番光明寺徒弟伊藤大輝師が選任されました。

### ○ 中国祖蹟視察研修旅行参加者募集について

一九六〇年代文化大革命により、廃仏毀釈が行われた仏教が、その後短期間で復興を成し遂げた現地を視察。拜登寺院として大医道信禅師縁の「四相寺」大満弘忍禅師縁の「五相寺」更に唐代古刹の「安国寺」(護国寺)等を予定しております。参加申し込みは、先に現職研修案内に同封いたしました用紙に必要事項を記入の上お申し込みください。尚参加者は本庁に宗門経歴となる「海外宗教事情視察員」として申請いたします。

宗務所長名の檀信徒用感謝状弔辞を準備しております。お問い合わせください。